

## 令和6年度東京都住宅防火対策推進会議（第2回）開催結果

### 1 開催日時

令和7年1月30日（金） 10時00分から12時00分まで

### 2 開催場所

東京消防庁本部庁舎8階 特別会議室（東京都千代田区大手町一丁目3番5号）

### 3 出席者（※下線：リモート参加）

#### (1) 委員（敬称省略、順不動）

水野 雅之、宇於崎 裕美、柿野 成美、奥田 悦子、森 純一、舟山 仁一、  
堀川 正弘、鈴木 千代子、吉成 武男、福田 響、平泉 史子、渡邊 和成、  
沼倉 護

（計13名）

#### (2) 東京消防庁関係者

防災部長（主宰者）、参事兼防災安全課長、事務局（防災安全課）

### 4 議事

#### 住宅への消火器等の設置の効果的な普及啓発方策について

#### (1) 消火器に関する住民への意識調査の結果について

#### (2) 意識調査結果を踏まえた普及啓発方策について

### 5 配布資料

#### (1) 令和6年度東京都住宅防火対策推進会議委員名簿 ……………

資料1

#### (2) 席次表 ……………

資料2

#### (3) 推進会議資料 ……………

資料3

#### (5) 参考資料<消火器に関する住民への意識調査> ……………

資料4

## 6 議事概要

### (1) 消火器に関する住民への意識調査の結果について

事務局より資料3を用いて、1ページから10ページまで説明がされた。

### (2) 意識調査結果を踏まえた普及啓発方策

事務局より資料3を用いて、11ページから16ページまで説明がされた。

○委員 子ども達に親しんでもらうということで、小学校、中学校、あるいは幼稚園・保育所の運動会で消火器を実際を使って火消し競争。火自体は仮想のイラストでもいいが、火消し競争という競技性と娯楽性を持たせて、毎年、運動会の時にその競技を入れていく。実際の消火器自体は、例えばメーカーとか販売店で使用期限間近の販売はできないけれども、まだまだ使えるというようなものを提供していただいて使う。いずれにしても、実体験、案内、回収というどの活動は、東京消防庁一つの組織だけでは無理だと思う。民間、あるいはその他の組織とのコラボが必要。

プレゼントということも出てきたが、不動産・引っ越しだけではなく、家具の販売業者にはたらきかける。

ニュースで火災の報道があった時に必ず最後に消火器・防火情報についてはこちらをご覧くださいというテロップとかアナウンスを入れる。今、自死に関する報道があった時にいのちの電話のような案内がある。火災情報の時に必ず入れてもらうような依頼をテレビ局、新聞社、ネットニュース配信社に働きかける。公共性のあることには無料で協力をしてくれやすいという傾向がある。

○主宰者 運動会のところは、教育強化の中の具体的な例としても考えられる。不動産・引っ越しというところでは、新築に捕らわれていたところもあるので、家具の販売店なども協力先として検討していきたい。

建物の管理会社などにも働きかけて、サブスクもしないでそこが管理をして常設する。賃貸であれば、そういうことがもっとできるように働きかけるということもあるかもしれない。

先ほどのテロップなども、まさしく報道が流れた時にここを見てくださいというのは必ず出る。冬季は本当に火事が多いので、そういう時にそういう情報をお伝える。家具の転倒防止もやっているの、それも地震の時にやるというような、合わせて複合的に願います。主旨とは少し違うが、ヒントにさせていただき、反映させてもらえればと思う。

○事務局 今の報道機関に対しての働きかけについて、東京消防庁の広報部門と話した時に、報道機関が何を放送するのかというのは、やはり報道機関側に選択権があるので、そこまではという意見もあったので載せなかった。今の委員のご意見を聞くと、確かに公共性があるものについては、もしかしたら報道機関自体も受け入れてくれる可能性もあるので、もう少し前向きに検討していきたい。

○委員 具体策としては、例えばメディアを集めて防災防火研究会みたいなものを開いて、そこ

を報道番組の中で紹介をしてくださいと。あとは強制ではなく任せる。報道記者達も「ああ、いい取り組みだな」と思ってくれると思う。もちろんニュースは東京だけではなくていろいろな地域でやるので、総務省のもっと包括的なホームページでもいいのではないかな。

○委員 住民の繋がりの中できっかけとか動機付けを高めていくというところについて発言する。消防署で防火の集いがあり、中学校の吹奏楽部が呼ばれていた。一つは、吹奏楽部の保護者の人達が子ども達見たさにいっぱい人が入っていたという印象があった。そういった集いに地域の関係者が出席するような、吹奏楽部を呼んだら、その保護者も来るかもしれないみたいな、何かそういう仕掛けとはいいと思いつつ見送っていた。

その中でまず感じたのが、町会の方がすごく熱心に防火のこと、町のことを考えていると思った。1点目が、阪神淡路大震災のニュースとかを見ていても、やはり、いざという時には近所の人同士が顔の見える関係で助け合うということがあるので、引っ越しの時とかに町会といった関係の中でも少し消火器を手渡しするとか、町会の行事のところで一緒に何かをやるとか、実際に使う時に一人で全部覚えているというよりも一緒に動く人達との関係の中でというところで、引っ越してきた時に町会のほうからも声掛けをするということも有効なのかなと思う。防火の集いで表彰されている皆さんは、長年、町会で頑張っている方が多かったという印象を持っている。

2点目が、若い消防隊員の方がイベントで消火器の使い方をとてもわかりやすく紹介していた。中学生達も横で見ている。歌のところで、消火器を身近に感じさせるような歌というのがあるが、たぶん、消火器があるといいよねということ自体は皆さん誰も否定するものではないので、そこを歌にするというよりも、どう使えばいいのかという「下向けでね」とか「ピンとやって」とか、そこら辺をうまく音楽にできるといいかなと思う。

もう一つが、調査結果で上位にニュースがきっかけということがある。先ほど阪神淡路大震災の話もしたけれども、やっぱり、節目、節目のところに関心が高まることはあると思う。今、皆さんがすごく敏感に関心が高いのは防犯のような気がしている。防犯と防火をセットでお伝えするというのも、効果的かなと思う。

○主宰者 確かに歌で使い方というのはいいと思う。防犯と防災の話もされていたが、災害だけではなく、今、SNSの問題とか、本当にいろいろなところに危ないことが潜んでいるので、そういうところをみんなに一体で伝えられるような、機関で言うと消防・警察みたいな感じがあるかもしれないけれども、コラボをしていくとニュース性も高まるかもしれないし、そういうことも視野に入れていくのもとてもいいかなと思う。

○委員 私どもの地区では、防災のために始めたお祭りがあり、15、6年ぐらやっています。まず地域の人が仲良くなって顔見知りになることが第一で、そのためにはどうしたらいいのかを皆で考え、子ども主体でお祭りを開こうということになりました。子どもが司会をしたり、祭りの企画をしています。先ほど吹奏楽の話がありましたが、祭りでは、オープニングに吹奏楽に演奏してもらい、ダンスもします。保護者の皆さんも来てくれています。さらに、防災意識を高めようということで、起震車に来てもらったり、消火器の訓練を子ども達には必ずやってもらうようにしているんですけれども、先ほども話があった通り、消防署の方には、消火器を使用する際に

気を付けなければいけないところを、もう少し丁寧に指導していただけるように要望しようと思います。確かに教わりながらやっているんですけども。次回からは、始まる時の挨拶の中で、「今日は全員やってくださいね」というようなことを言って、皆さんにはもっと消火器の使い方を覚えてもらいたいと思っています。この中で、替え歌で消火器の使い方を覚えるという、こういうものはありますか？

○事務局 いや、これからつくってみたいということです。

○委員 私はここに丸を付けて、効果を覚えるとか、そんなのがあるんだったらどんなものなのか聞いてみたいなと思ったんですけども。

○事務局 つくってみたいという事務局の意向でございます。

○委員 今回このような会議に出て、情報を得て、それを東京都町会連合会の皆さんに伝え、また自分の地元に戻って中野区の皆さんに言うておりますが、その時には理解していただけますが、一步踏み出せないんですね。その一步踏み出すのに、品川区のような補助金は、いい例と感じました。

○主宰者 地域の中でこういうのがあれば、これを使って地域の皆さんにアピールできるし、逆にそういうものがあれば、例えば事業者の団体の皆さんにお願いをして、来てもらって、これで斡旋できますよというようなことも、この場でやってしまえる。

○委員 東京都の防災コーディネーター研修が毎年行なわれており、今年は依頼をいただき、先日、オンライン研修をした。以前に防災コーディネーターの研修を受けられた方達のステップアップ講座として行ったものなので、ベースはある程度ある方達への研修です。

その中で、火災について少し専門的に入れ、マイ消火器についても話を入れた。そして、ステップアップなので3カ年計画を立てるよという事で課題を与えて、それについて防災コーディネーターの方達に考えてもらった。その中で、東京都が目指しているのが自助率100%ということで、それに基づいて自助率100%を達成するために3年間の計画を立てるという課題を出したのですが、その中で消火器を備えたいというグループもあった。でも、参加した方達の中には消火器にまだ触ったことがない、消火器の使い方もわからないという方が周りにたくさんいると言っており、自分が関わっている周りの団体によっては、消火器なんて全く知らないという方が結構な数にいるということ話をしていた。また、毎回、防災訓練に参加しているのは同じ方達なので、なかなか伸びていっていない、伝わっていない方がいるということもある。

あと、住警器のほうでいろいろなところとコラボという話があったが、いろいろなところと同じでやっていかなければいけないというところからすると、あるアパートを運営している方が、全部が連動している住警器を付けたそうなんです。一度火災の発生音が鳴った時に、全部の部屋が連動しているの、7件ぐらいのアパートらしいが、一気に全部が鳴ったので、みんなが「どうした、どうした、どうした」と言って出てきてくれたと言っていた。その時に消火器を持って「ど

うした？」と言って出てきてくれるということで、マイ消火器を持つということがすごく重要なのではないかと思うので、子どもの頃からマイ消火器を持つという教育をしていくのが重要だと思う。

それで、飾りたくなるようなマイ消火器ということで、私も AI でつくった画像を三つぐらい参加者の方に見せて、今、この時代にはないけれども、こういったものだったら置きたい。私達が消火器を買わなければいけない、備えなければいけないというのではなく、自分の消火器が欲しいと思うような取り組みにしていかなければいけないということを考えてもらった。そちらのほうでも、やっぱり推しをつけるとか、推しが君達の命を守りたいから、僕が持っているマイ消火器、自分が書いてあるマイ消火器をぜひ持ってくれと言えば、買うんじゃないかと。東京都の担当者さんも「それは絶対買いますね」とおっしゃって、結構反応が良かったりしました。あと、子どもの絵を付けるとかを提案したら、「そういうのもいいですね」ということでした。

○主宰者 今回のアンケートも、私達のホームページ、アプリとかで対象を選んでいるということもあり、どちらかと言うと興味のある方が多い。意外とやっていない人も周りにいるという可能性は十分にあるのではないかと思う。どうやって普及をしていくかということと、どうやって興味を持ってもらって、買おうと思ってもらおうかという、普段の取り組みにプラスアルファ、今までやったことのないようなアプローチもあると思う。

○委員 子どもが生まれたばかりのお父さんが参加していて、子どもが生まれるまでは家具の転倒防止とかは考えたこともなかったし、消火器を備えるなども考えたこともなかったと言っていた。赤ちゃんが生まれる前の教室とか子育て広場とかで、お父さんになりたての方、お母さんになりたての方がどうやって家族を守るのかというところからのアプローチもいいのではないかなとも思う。これを備えていないと子ども達の命を守れないという。本当の意味で守るのは、留守番をしている家族を守るとか、寝ている間を守るということで、家族を守るという意識が芽生えたタイミングでプッシュすることによってかなり可能性が上がるのではないかと。

○委員 15 ページの対策案 4 で、サブスク等によって販売業者に働きかけるということでご主旨はわかるが、通常の赤い消火器で仮に 1 本 1 万円としますと、有効期間が 10 年で年に千円ですね。12 で割ると月に 800 円ぐらい。これを自動で引き落とされても銀行の振込手数料でたぶん赤字になってしまう。住宅用消火器は 5 年間メンテフリーです。その間は訪問販売で「お宅の消火器は古いから詰め替えなくてはいけませんよ」と言われても詰め替える必要はない。ただ、5 年で使わなくても捨てなくてはいけないという部分はネックかもしれない。そうすると、当然、通常の赤い消火器よりも少し安価にはなるので、5 年間 60 回のサブスクという、例えば住警器とセットとか、ガス会社さんがガス代と一緒に引き落とすのならいいが、単独だと 1 回の金額が数百円になってしまい、ちょっと我々組合員としても難しいかなという感じがする。

○委員 最初に購入をしていただいて、その控えを持っておいて、5 年後に「5 年前にお求めになったものは有効期限がそろそろ切れますよ」というご案内を出すというほうが現実的。

○主宰者 定期的に何かしらやっているというところと何かうまくタイアップできる。単独でやるのはなかなか難しそうだということであれば、ほかのこういう事業をやっている方に、うまくそこに取り込んでもらうということはあるかもしれない。サブスクの課題の中にそういう観点もちょっと加えてみたいと思う。

あとは、サブスクですが、「また5年後に我々来ますので」という、一括サブスクではないけれども、一括で買っていただくけれども、それは「私達が5年後にまた来ますので」というような形で何かうまく消費者の皆さんにお伝えできるということも、もしかすると地元の消火器などを扱っていらっしゃるところで活用できる可能性もあるかもしれない。お店だとなかなか住所とかがわからない。また、訪問販売になると、先ほどの悪質業者みたいな話が出てきてしまうかもしれない。もしかすると町会や私達の訓練とうまくコラボして、一緒にやっていますよというところであれば信頼度も。そういういろいろな組み合わせがあると面白いのかもしれない。

○委員 今の話と少し繋がるが、消費者教育支援センターではガス機器のメーカーのガス機器を安全に使うためにという啓発冊子を作って、配っている。そのガス機器メーカーの展示会にも時々行かせてもらうが、そこに販売会社の方がたくさん来ていて、そういうガス機器を取り替えるということでもタイミングとしてはあると思う。そういった時に消火器のお話もセットに。サブスクとは少し違うが、タイミングの一つとして、ガス器具メーカーともタイアップしていくといいのではないか。

○主宰者 ガス機器だと、結局、火を使うところなので、そこうまく連動できると、それはそれでいいのかもしれない。

○委員 昨年火事のニュース見ていて本当にいたたまれなくなった。自分に何ができるだろうかということ考えた時に、この委員会を思い出し、そこで消火器ということが結び付いた。消火器を家に備えようというところに思考が繋がっていかないということを感じた。ニュースの時に初期消火で消火器を使っていくことが非常に有効だというメッセージを流していくということがとてもいいのではないかと強く感じた。私は自宅にあった消火器の使用期限を確認してみたら切れていて、家の近くのどこで買ったらいいだろうとまず思い、インターネットで買った。そうしたら残った消火器はどうすればいいだろうと思って。全く何もわからない状態で、捨てようと思っても家の近くに捨てる場所がない。一般消費者の行動を変えていくという時に、いくつもハードルがあって、そこを少しクリアにしながら消火器に結び付けるという回路と、あとは、どうやったら買えるとか、買った後のリサイクル処理の仕方みたいなのも併せて、もっと知ってもらうことがすごく重要だと自分自身の経験として感じた。

○主宰者 まさにアンケートに出ている状況と同じで、どうやって買えばいいのかわからないとか、どうやって処分したらいいのかわからない。工業会の皆様に、今回、チラシをいただいでいて、回収の話ですとか、交換の話とか、取り組んでいただいていますし、私達も全く何もしていないわけではないけれども、なかなか届かないというところです。今回も皆さんにいろいろなご

意見をいただいて、先ほど報道機関とのタイアップなども、ニュースを見た時に「消火器ってやっぱり大事だよな」とか、警報器の話も当然入れてもいいかもしれませし、そういうことをいろいろなところで発信して、皆さんが必要だなと思った時に見られるような取り組みをいろいろなところとコラボしてうまくやっていくことができるといいと思う。

○委員 詰め替えというのがありますが、入れ物自体は何年ぐらい対応できるのか？

○委員 基本的に一般住宅には消火器の設置義務がないので詰め替えの義務もない。詰め替えはもちろん出来るが、蓄圧式という指示圧力計という圧力のメーターが付いているものをご覧になったことがあるかと思うが、今はそういったものが主流になり、9割ぐらいがそういうものを出荷している。それだと、詰め替えるとかかなりの手間がかかり、現実的には詰め替えるよりも新しいものを買ったほうが安くなるというのが現状です。詰め替えをすることは別に構わないが、経済的に考えると、10年使わないで置いておいて、期限が切れたら、次の時には新しいものを買って求めたほうが間違いないでしょう。

先ほどから維持管理費の問題が出ているが、住宅用消火器は5年間、外観の点検をし、傷がないか、圧力が落ちてないかというのを見てもらえれば使えるということが保証されている。6年目に必ず交換しなければいけないということはもちろんない。私どももリサイクルをやっていて、10年ぐらい経って帰ってきたものを工場で放射して、中を出して、缶体は鉄くずとしてリサイクルさせるというやり方をするが、出ないものはほとんどない。使って使えないことはないが、素人の方では判断ができないので、ある一定の期間が経ったら替えていただきたいということ。

本来、消火器というのは一般ゴミ。一般ゴミというのは、基本的には自治体が回収する義務がある。ただ、消火器とかバッテリーみたいなものは回収困難物という形で、ほとんどの自治体が回収をしてないが、回収していないところばかりではなく、回収をしている自治体もある。

○委員 全国の話だが、ただ、中身が空だと回収するという。要するに鉄くずです。それが30団体。指定日と場所の引き取りで回収するというのが40団体。指定場所に持ち込まれたものを引き取るというのが33団体。指定日に訪問をして回収するというのが2団体。粗大ごみの日などの指定日に収集するというのが19団体。斡旋業者による回収が12団体。消防団による回収が1団体。全体で137団体ぐらいがある。決して回収できないわけではないが、どちらかと言うと、やり方がわからない。料金の問題も昔の消火器には処理するためのシールが貼られていなかった。2010年からシールを貼って、買ったものはある場所に持っていけば引き取ってもらえるというシステム。将来的には、市などで集めていただき、回収がどうだこうだという話にはならないと思うので、そういうことを目指しながらやっていきたいと我々は思っている。

そういったこともあって、リサイクルレポートというのは消防の関係向けに昨年つくった資料です。要するに、消防署の方が一般の方から「どこに持っていけばいい？」「どこに捨てればいい？」とかをよく聞かれるということがあり、対応できるようにした。

小さいリーフレットは、いろいろなイベントの時に活用するためにつくっており、昨年12月にエコプロ24というのが開催されて、これは10年以上ずっとやられているリサイクルのイベントです。そこには、東京都内の小学校が課外授業で来て、子どもの教育というのがあるが、大体ブ

ースには 4,500 名ぐらい毎年来て、その内の 9 割ぐらいが小学生です。小学生なので興味本位とかいろいろあるが、ただ、課外活動なので、勉強する項目を書いて学校に提出するということがある。あと、こういうリーフレットは、「お母さんとお父さんに渡して消火器の捨て方がわからなかったら使ってくださいね」とか「なかったら買ってくださね」という話もする。

先ほど委員からもありましたけれども、推しみたいなのがあればいいということで、あるメーカーではキティちゃんを付けた住宅用消火器を販売しており、一定数は売れている。推しの方には売れるが、全体から見ると商売にはなかなか難しいところもある。去年のこのブースでは AI でカタログをつくって、将来の消火器はこんなものがあるという、とんでもないような形のものを AI と作ったので、そういったものも面白さの一つということで、イベントとして集まってもらった。

私は荒川区のマンションに住んでおり、去年の 12 月に荒川消防署の方に来てもらい、マンションの住民で消火器と地震車の体験をしてもらった。私のマンションの場合は、各住居に住宅用消火器が置いてあるが、訓練は、一般の業務用の大きい 10 型を基準とした水消火器なので、それを持つと「やっぱり重たいね」ということで、置いて消火する方のほうが多いので、「1 回持ち上げて消火してください」とか、掛けただけでは火は消えないので、掃くように消火してくださいと、水といえども、そういったことを注意事項としておっしゃっていただくように私のほうからお願いをしてやってもらった。自治会単位で消防署にお願いをすると来ていただけるということを知らない人も結構多いのではないかと思う。

たまたま 12 月に東京都のホームページを見ていたら、11 月まではマンションが地域の町内を含めて何かをすると東京ではいろいろな補助があるということが出ており、ちょっと情報を取るのが遅かった。周りを一緒に巻き込んでやれば良かったなと思ったので、そういうことも活用していくと、訓練とかもできるし、2010 年からリサイクルをやっているが、どこに捨てたらいいかというのがまだまだ認知が非常に低いので、消火器の普及と、普及されていけば廃棄が一体になっているので、そういうことも含めて、これからいろいろ運動をしていきたいと思っている

○委員 多摩は全部調べてはいないが、23 区は清掃処理事務組合があり、23 区では消火器は処理困難物に指定されているので清掃事務所では持っていない。どうするかと言うと、結局、我々の組合員を紹介するという形になっている。

○委員 例えば古い加圧式の消火器などで放射して取ろうとすると破裂するとか、一定の知識がないと危険がある。鉄くず業者も事業所だったら産業廃棄物として捨てられるという方もいるが、全ての産業廃棄物の業者さんが引き取るわけでもない。ですから、専門のところに特定窓口という、全国に 5000 ヶ所ぐらいある。

○委員 最近離島にも設置されており、大島にもできて、今度は八丈島に広げていきたいという考えもあります。

○委員 ACをお願いをしてCMをつくってもらったらどうか？

○委員 廃棄については5,000カ所にお問い合わせくださいというのをちょっとでも言ってもらえれば、「あっ、そうか」と気付く人はいるのではないか。

○委員 例えば東京とか大きい区役所とか地方の市役所とか、大きいところのホームページには、消火器の取り扱いということは結構載せていただいている。そこに辿り着くどうかという問題はもちろんある。

○委員 検索する段階で、もうその人は意識がはっきりあるのでいいが、ぼんやりして、そもそも買い替えなければいけないとか、古いものは捨てなくてはいけないとまで思っていない人達をどう目覚めさせるか。ぼんやりしていても半ば強制的に目に飛び込んでくる、耳に入ってくるような情報も必要。

○庁内出席者 対策3のところでお聞きしたいことが二つあります。対策3については、先ほどいろいろ防犯とのセットでした方がいいと。まさにその通りだと思いますが、例えば住警器や家具転も、建物内の安全化というところでは共通をしていて、消火器とか住警器とか家具転とか、そういうものもセットにして覚えてもらうという方法もあるかと思う。防犯を加えてもいいんですけども、防犯を加える前に、私達はそういったところでまずやらなくてはいけない部分もあるのかなと思っているのが一つお聞きしたいことです。

あと、対策5について、アンケートでも消火器の回収が気になっている方が多いということがありますが、それがセットでできる可能性があるかというところで、回収もして、それを使って実際に噴射ができるような機会があってもいいかとは思いますが、仕組みができなくてはいけない部分がある。そうすると、もしご協力いただけるのだったら、リサイクルセンターが、使用期限が過ぎたか前なのか、そういったものを集めたので、ちょうど集まったら、これを訓練で使っているですよという形で、いただくような形で訓練をさせていただいて、それも回収していただけたらいいか。一番いいのは、集まったということであれば、消防署のほうで企画をして、この場所です訓練をやるので、リサイクルセンターさんが廃棄直前で使えるものを一緒に持って来ていただけて、回収もして、販売もできる仕組みかはわからないが、いろいろ体験もできて、回収もできて、新品に交換もできて。そういったことが工業会さんでは可能なかということをお聞きしたい。

○委員 消火器工業会としては販売はやっていませんので、セットで販売はできない。回収にご協力することはできます。販売をセットということであれば、防災を専門とされているところに、例えば、何月何日にそういったイベントをやって、消火の訓練で古いやつを持ってきていただく。それで、リサイクルシールの付いていないものについては、リサイクルシールをその場で買っていただく。古い消火器で使えそうかという判断は専門の人じゃないと、判断を間違えて破裂して怪我につながる。放射した後の後始末は地域でやってもらえるかどうか。放射したものについてはリサイクルはできないので、普通の一般ゴミとして出してもらおう。

○委員 今でも各区とか防災のイベントの時に、地元の我々の仲間にお声掛けをいただいて、23区くまなくかどうかは別として、ご協力はしているのではないかと思います。私の地元の品川区では防災フェアというのが年に1回あって、その時はブースを出して展示即売。持ち込まれた消火器はその場で回収ということはやっている。各消防署が管内の業者にご相談いただければ、我々の支部が各区にあるので、100%ご期待に添っているかどうかはわからないけれどもやっていると思う。

○委員 神奈川県消防学校で、夏休みに子ども達に教えているが、その時に初任生の方達もいる。初任生が子ども達に指導をするという経験にもなるし、消防学校だったら噴射しても大丈夫な敷地もある。そういったところで子ども達に付加価値として、夏休みに本物の消火器を使うというようなことはなかなかできることではないので、本物の消火器が使える訓練ができるということで子どもを集めて、消防の方達が教えてくれれば、消防のお兄さん、お姉さん、初任生の方達であっても格好いいという消防のイメージを付けることにもなる。そうすると消防を目指す子ども達がますます増えると思うし、一般市民に教えるよりも、そういった消防にきちんと根付いた少年消防クラブの子ども達に「実際の消火器を使えたんだ」、「やってみたんだよ。私、できたんだよ」というような強烈な印象になると思うので、将来、消防活動にも従事してくれるようになると思う。子どものうちに体験したことはすごく大事だと思うので、もし実際に消火器が使える場所で体験できるということがあれば、ぜひやってみたいと思う。

○委員 大学の学園祭で学生に協力をしてもらってやってもらうというのはどうか。工学部で消火器の中身を出すことが手間ではなく、面白いと感じるような人達に手伝ってもらって、もちろん専門家にご協力をいただいて、これは人前で使っても大丈夫というものを集めての実体験。火を消さなくても、出す体験だけでもきっとやってみれば面白いと思う。学園祭とかで、広い場所で、学生もやるけれども、一般で来た人もできるというのがあったら、協力してくれるところがあるのではないか。結局、中身の処理の問題はきっと人手と場所なんですよね。ということで、大学の学園祭に提案という案を。

○主宰者 工業会の方に教えてもらいたいですが、期限が切れそう、切れているものというは、そんなに数があるのか。確保できる可能性があったりするのか。

○委員 どの場所で回収するかということももちろんあるが、今年度で言うと500万本近い消火器を回収している。それは、40年前のもいれば、10年、最近では6年目で先ほど言ったように蓄圧化になってきていますので、6年目に中身を機能試験とかいろいろなことで6年目で帰ってくるものもある、そういったものが、たまたまやる場所の近くであれば、そういったことは可能かもしれない。ただ、そこでそういったものが集まるかどうかというのはちょっと何とも言えない。

○主宰者 やはり実際に使ってみたいという意見がすごく出ていて、この前も委員の皆様から実際に使ったほうが絶対いいと。私達の水消火器の訓練も、あれは簡易的に何度も何度も繰り返す

て使えるのでいいが、実体験の機会をなんとか確保できないかという視点でちょっとものをなんとか。予算で買うというのはなかなか厳しいので、そういう形でやってみるとか。どこまで繋げられるかはわからないが、回収という視点と、それを使うというところをうまく繋げられるような仕組みを考えてもいいのではないかと思う

○委員 私は企業広報とか学校法人の広報をお手伝いする仕事ですが、どこも一番困っているのは、自分達の活動に公共性を持たせるということです。例えば私企業がこれを売ります。たくさん売りたい。なぜなら売上を上げたいから、皆さん注目してマスコミやネットで取り上げてと言っても駄目です。「おたくの企業だけが儲かるんでしょ？」というのでは駄目だから、公共性を持たせる。だから、SDGs が流行っていて、これは SDGs に貢献していますと言うと、人々も関心を持ち、マスコミにも取り上げられやすくなるし、人も集まりやすくなるというのがある。消火器の普及と廃棄はまさに公共性が高いから、呼びかけると反応してくれる企業、あるいは学校、何かの団体があるのではないかと思う。もっと言うと、芸能プロダクションだって、さっき推しの話があったが、あるタレントと公共性を結び付けて売り出すということがある。観光大使などはまさにそうです。芸能プロダクションや事務所に相談すると、じゃあ、うちは今このタレントを売り出したい。だから消防大使として売り出したいので、消火器にステッカー貼ってくださいとか、そのタレントの消火器をつくりましょうとか乗ってくれるところもあるかもしれない。

○主宰者 いろいろなところにコラボできる可能性があるということですね。

○委員 東京消防庁からの依頼だったら受けてくれるところは多いと思う。単に民間企業が「おたくとコラボしたいんですけれども」と言っても、まずはお金の話になるか門前払いだが、東京消防庁が言ったら、「何でしょう？うちでお役に立てるんでしょうか？」と話を聞いてくれるところはあ

○委員 ここのところ火事がすごく多い。品川は家庭用消火器の助成金を出しました。この一歩踏み出したことが、周りが動き出すきっかけとなってくればいい。火事になる前に、家族を守るためにもということ、少しでも皆さんに取り組んでもらえたらいい。

あと、実物を使いたいというのであれば、各区に街頭消火器というのがあって、各区に何万本もあります。それらが交換期限が来るときに活用を考えるのはどうだろうか。

○委員 期限がわかっているから、「今年は1,000本ぐらい出しますよ」というような話が出てくれば、「それを使わせてくれませんか？」という考え方をすればいいのかと思う。23区どこでもあると思う。だから、そういうものをうまく使うようにやればいいと思う。

○委員 中野区も斡旋はやっている。5、6年前の資料で14区は斡旋をやっている。ただ、補助金が出ているのは、去年で江東区と品川区だけです。不良訪問販売業者を排除するというので、昔は羽毛布団、百科事典、消火器は三大不良訪問販売業者だったが、この業者は安心ですよということで、昭和60年ぐらいから各区で斡旋を始めた。最初は結構な区で補助金を出していた。だ

んだん補助金が廃止になり、今、江東、品川だけで補助金が出ていますが、残りの 12、13 区は、区の広報に小さく出したりということで斡旋のみをやっている。

それから、一昨年(2021)の9月からは東京都の木密の住宅についてはさらに加えて補助を出している区もある。

○委員 対策3の、幼少期からというところについては、子どもを通じて大人を巻き込むということで、一つの方法だと思う。アンケート結果の関係からすると、若年層、若者達にもうちよつと興味を持って欲しいということで言うと、戸建てでお子さんがいらっしやらないような若者達にも少しアプローチをする必要があるかなと感じている。手法としては対策3のような考え方で、私の頭の中ではTikTokとかダンスとか、若者が素で興味を持てるようなものがあるような気はする。

○委員 中野のイベントの時に、若手の消防署員の方のご説明がすごくわかりやすかった。たぶん消防の中の若手職員にいろいろアイデアを出してもらおうと、何かいいものができるのと思う。対象がお子さんだと、お子さんのいないところには届かないかと思う。

○委員 対策案3にある歌をつくるころだが、私自身、小学生の時に、これは警察の曲ですが、交通安全とか知らない人についていけないという歌があって、『いかのおすし』という歌なんです。そういえば、そういう歌があったなど。今でも歌は覚えているので、ぜひ、これはやったほうがいいのではないかと。学生目線ですが、そこで流れたことが10年経った今でも覚えているということは、今後、私達20代が大きくなった時も自分の子どもとか親戚とかに伝える一つの方法になるのではないかと感じた。

私も消防団員で広報活動をしているということがあって、実際に小さい子に服を着させて写真を撮るみたいなイベントがあって、そういう時こういうパンフレットを配布するということをやっていたが、その時に消防車とかの形をした小さな消しゴムを渡すのも一つなんですけれども、せっかく消火器の使い方を知らせるのであれば、QRコードを付けた消防車の形をしたマグネットみたいなものを配布するのも一つかと思う。冷蔵庫などに貼れば、火の元となるキッチンの近くにも置いておけるし、子どもが食べたりする危険性もあまりないので、マグネットはいいと思う。

○委員 消火器型の消しゴムとか消火器型のマグネットでもいいですね。そうしたら本物が欲しいと。

○福田委員 何か繋がってもらえればいい。あと、SNSはいろいろな行政の関係で難しいかもしれないが、インスタグラムのリール動画みたいなものがあるが、私自身もそういったところから情報を得ることも多く、それは1分とか30秒の短い動画になっているのですごく見やすい。日常的にポンとやったらすぐ出てくるみたいな。そういうものも活用できていくのであればいいかなと。あと1点思ったのは、電車の広告。私自身、通勤、通学で電車を使うことも多いので、何気に日常的に流れてくるという面では、電車の電子広告みたいなものも使えていけたら一つの方法とし

てはいいと感じた。

○主宰者 歌の話で、いろいろ盛り込んでいくのがいいのではないかという話もあったが、短くするのであれば、単発でいろいろつくったほうがいいのかも。そういう形の広報をする。それをそれぞれ何本か立てていって、これが流行るとこっちも繋がっていくみたいになって、今度新しいのが出ましたよみたいなほうが、一気に盛り盛りとやるよりもいいのかも。

○委員 一般市民の感覚で消火器を使う時のことだが、自分が買った消火器の中身が入っているのにそのまま廃棄するというのはもったいないという気持ちは、たぶん、みんなある。もし近くに使える場所があれば、自分が買った消火器の中身を自分で体験してからとか、子どもが2人いたら2人に体験させたいから二つ用意しておくとか、期限が切れる前に体験できる場所があれば、自分が買ったものが無駄にならないという気持ちを芽生える。自分が持ってきたものは自分で使えるというような場所があれば、今日持ってきたら使えますよ、そして持ってきたら、それもすぐそこで回収できるし、新しいものをそこで少し安く売りますよということをやったら、自分で持ってきてくれて、自分で持って帰ってくれるという、手間とかお金もかからなくて、本人達が意識も持ってきてくれて、そして得したような気になって帰るという。そういった取り組みができるといいと思う。

○委員 訓練で使っている水消火器の使い方と粉末タイプの消火器の使い方というのは基本的には一緒か

○主宰者 基本的には同じ。

○委員 燃えている材料によっても、例えば水系のものがいいのか、粉末がいいのかということもある。一番簡単などころで言えば、一般家庭ではタバコの火が多いが、女性だと台所で天ぷら油の火災。あれは消火器でももちろん消せますし、それは水系でも粉末でもどちらでも大丈夫です。強いて言うならばエアゾール式の消火器具ですね。あれだと家庭用の天ぷら油の鍋なら1秒ぐらいで消えます。

○委員 昔、水消火器で訓練をやっても意味がないんじゃないかとずっと思っていたが、でも、実際の消火器の粉末のあの汚染状況を見ると、これは訓練では使えないなと思った。動作さえきちんと訓練ができていれば、実際の火災でも同じように役に立つということでもいいのか

○委員 きちんと動作が体に染み込んでいただければ、いざという時に使えると思う。ぜひ、水消火器の訓練ぐらいは最低でもやっていただくのが一番いいと思う。

○委員 消火器を置くか置かないかというのは、いざ火事が起きてどうやって消すのかという時に、水を汲んで掛けるとか、そんなことでは全然間に合わない。だから消火器が必要だということ

ころが、たぶん映像素材としてできているんじゃないかなと思う。住警器が鳴って、火事に気づいて、寝ている状態から起きたと。さあ、消そうと思って、消火器がある家は消火器を持ってぱっと消せる。でも、ない時はお風呂に行って、「あっ、水が張ってない」とか。台所でやかんに水を入れているとか。そんなことをやっている間にもう火事は消せないんだと。その感覚を理解するかしないかで、消火器を置くか置かないかになると思う。そういった素材がたぶんあると思うが、それがうまく普及できていないと思う。

○委員 火事が起きた時に何を道具として持っているかということ。それこそ昔は消火器なんてなくて、小学校は水バケツを廊下に置いていた。あれを住宅でやるのか。水バケツ置くのか、消火器を置くのかという、その違いなんです。

○主宰者 そこをちゃんとわかるように、消火器があるということのメリットがしっかり伝わるようにということも、当然、やっていく必要があると思う。

○委員 今日、1から5の対策案について、これが複合的になれば、住民の方の消火器に対する理解が深まり、買おうかなということの動機付けになると思うので、いろいろな工夫をしながら1から5をやるのが有効と思う。対策案の1については、実は先日、防災訓練を見学させていただく機会があった時に、まさに管内の消防署の方が、火災件数の増加と家庭用消火器を持つことが有用ですよという話をされていて、住民の方は「うん、うん」とうなずかれています、それが終わった後に個別に住民の方から「消火器が捨てられなくて困っている」というご相談を署内の方が受けていたので、そういう接点を持ちながら普及をしていただくということがすごく大事と思うので、この対策案1は有効かと思う。

ただ一方で、防災訓練に来ない方をどうやって対策するのかという意味では、対策5のところの、そういう機会をイベントとかでつくるということが大事で、私は、区民祭りとか市民祭りとか、消防車とかはしご車とかを出されて区民祭りにかに参加されている消防署の方は多いと思うので、そういうような住民が多く集まる機会を接点に、こういうような普及をやるとすごく有効かと思う。

あと、消火器だけではなく、転倒防止とか警報器のこともという話もあった、ばらばらとやるよりも一体にこういうものを家庭で備えることが有効だという普及をセットでやったほうが有効かと思う。皆さん、それぞれのご知見の中からはいろいろなお話をされて、ちょっと見てみると、1から5を複合的にやるのが都民の皆さんにとって、住民の皆さんにとっては消火器を家で持つことが本当に大事だなというご理解に繋がると思う。歌の話もまさに学生の方はご経験があるんだなと思ってすごく感心したが、こういうこともやっていくといいと思う。

○委員 1から5があっても、それを複合的にまとめていくということになるのかなと思う。一番大事なのはやはり1のところの基本と思う。家族を守りたいという皆さんのインサイトがあっても、それに対して、なぜ消火器の訓練をするのかという理由付けをしっかりとデータだったり、消火器があるかないかによってどれだけ違うかみたいな話を訴求することが重要だと思う。この間、東京都のセミナーで東大の廣井先生のお話を伺った時に、火災の広がり方というのは、能登の

震災の時も阪神淡路大震災の時も変わらないというお話があった。初期消火の重要性を改めてしっかり伝えていくということが大事だなと思う。

2番の引っ越しとかの働きかけのところだが、やはり貰って嬉しいものが多いと思うので、デザイン性の高いものだったり、置き場所に困らないものとか、ちょっと工夫が必要だなと思う。

対策案3に関しては、これはすごくいいと思う。特に『いかのおすし』みたいな話や、津波の時に逃げるみたいな文化として定着していくような、口伝として伝えられるようなものが多いのかなと思うと、歌は重要だなと思う。

対策5ですね。使用期限が切れて買い替えるタイミングでの体験と購入までを一度にまとめてというところがすごくいいアイデアだと思うが、これがどう実現できるのかというところを少し考えていくのがいいと思う。ただ、実物の消火器でやること自体がいいのかというのは、確かにほかではできない体験だが、本物を使うことによる環境への影響だったり、さまざまな懸念があると思う。その体験によって何を残したいのかというところを少し整理して、プランとして見直していくのがいいと思う。

○委員 お子さんが持つ重量みたいなものがたぶんあると思うが、住宅用消火器なら、小学生ぐらいになると持てるのか？そういったあたりの広報もあると、どうせ消火器が家にあっても思わないで、子どもでも消せるという、そんなイメージのことを思ってもらったらどうか。

消火器本体にもっと回収のための情報は載せられないのか？消火器本体があればもうそれで済むような気がする。変な広報をするよりも消火器本体にその情報を掲載すればもっとうまくいくと思う。

○委員 消火器本体にはリサイクルシールは貼っているが、リサイクルシールもスペースがあって、処理するための情報はいっぱい載せているが、さらに先を言えば、QRコードを読み取ってただいて捨てる場所を探せるようなことを、今、検討をしている。ただ、スペースの問題があり、すぐにそれを別貼りでというのは、今は生産現場ではなかなか難しく、次の課題として考えている。